

国立大学法人 北海道教育大学 (札幌市)

インセンティブ付与による意識向上で 循環型省エネサイクルを実現

取組の概要

同校では、2009年から環境保全に取り組み、2013年度に「CO2排出量を2020年度までに8%削減」の目標を設定し、省エネの取組を推進。2020年の実績として目標を大幅に上回る24.3%の削減を実現した。これを受けて2021年度には「地球温暖化対策に関する実施計画2022」を新たに策定し、2030年度までに50%削減(2013年度比)を目指している。

くわえて札幌・旭川・釧路・函館・岩見沢の附属学校園を含む各キャンパスには環境保全推進本部の他に環境管理責任者を配置し、全学での取組を実施。

夏季10%、冬季8%などの節電目標を設定し、節電ロードマップに沿った照明や電化製品の省エネ対策を進めている。

◎高効率ボイラー導入で燃料を重油からガスへ

重油や灯油中心だった暖房設備のボイラー燃料を2013年度から天然ガスに更新。各キャンパスの中央ボイラーを高効率ガスボイラーに切り替え、札幌キャンパスでは暖房設備の蒸気管の断熱材を二重にして断熱性を強化するなどの改修を行い、年間のCO2排出量を削減。

◎使用頻度の高い照明から順次LED化

2013年度から各キャンパスの照明を順次LEDに交換。蛍光灯と比べて省電力・長寿命で環境破壊のリスクも低く、処分も容易でコストを抑えることが可能。外灯や講義室、図書館など電力消費の多い照明のLED化はほぼ完了し、さらに今後も改修予定。

◎循環型省エネルギー活動促進経費制度の導入

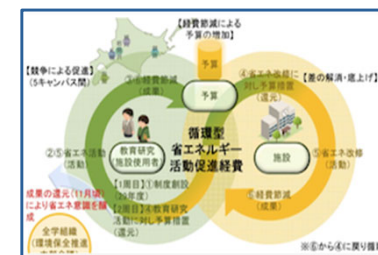
省エネ活動の達成度に対するインセンティブとして、キャンパスごとの光熱水料削減相当額を、設備の省エネ改修と教育研究費用として活用する制度を2017年度から運用。活動による成果が還元されることで教職員や学生の意識が向上し、循環型省エネサイクルが促進されている。



▲ボイラー燃料を重油から天然ガスに転換



▲附属図書館のLED化



▲循環型省エネサイクル

節電・省エネ効果

	エネルギー使用量 (原油換算kl)	CO2排出量(t-CO2)
取組前	3,943	10,056
取組後	3,497	6,875
削減率	11%	32%

取組を開始した2013年度と2021年度の比較

企業概要

国立大学法人北海道教育大学

■所在地: 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

■代表者: 学長 蛇穴 治夫

■業 種: 公益・特殊・独立行政法人 学校法人(教育(大学))

■問い合わせ先: 国立大学法人北海道教育大学 財務部 施設課

■電話番号: 011-778-0247

■URL: <https://www.hokkyodai.ac.jp>



ここもポイント

- ・基準熱量と前年度のエネルギー削減率を比較し、5キャンパスで順位付けを実施。
- ・ポスター掲示や電力使用状況の公表、独自に作成したチェックリストを各キャンパスで使用して節電パトロールを行うことで節電意識を醸成。
- ・全学で夏季一斉休業日を設定し、照明や冷房にかかる電力消費を削減。

オフィスで節電、はじめよう



北海道教育大学環境保全推進本部

▲節電ポスターの掲示で意識向上